

「ゴルフでは神の手でなく、神頼みの手になっちゃいます」

心臓外科医

# 須磨久善

Hisayoshi Suma

心臓外科医として数々の難手術に挑み、

世界中で多くの命を救ってきた須磨久善さん。

海外滞在時も忙しい合間を縫ってプレーを楽しむほどのゴルフ好きだが、

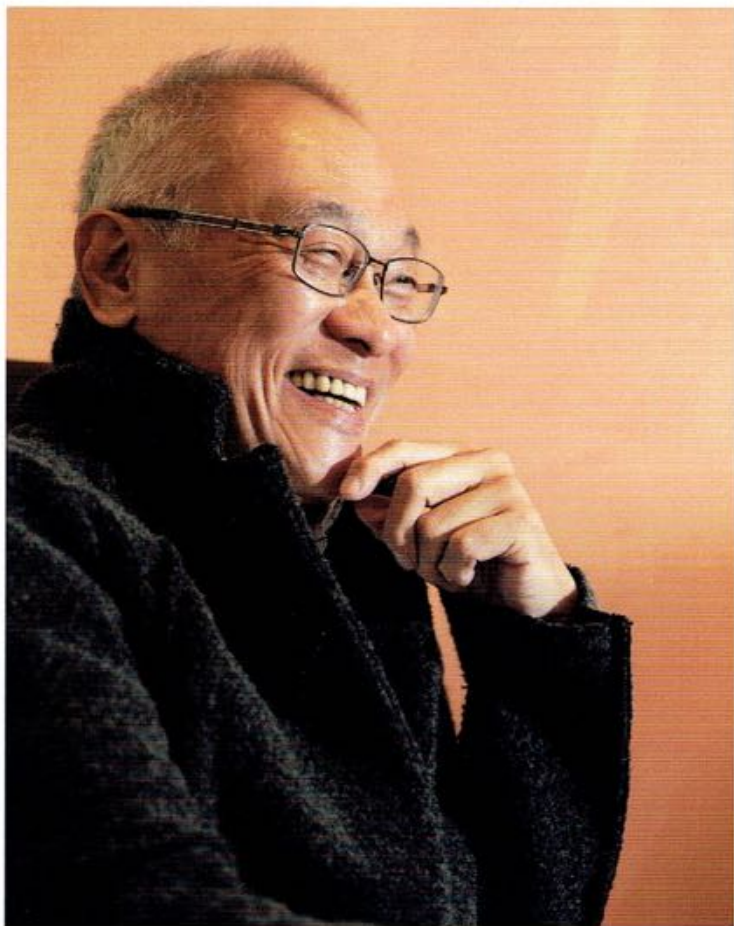
ゴルフは「変なスポーツ」とも感じると言う。さて、その真意とは？

「神の手」を持つ外科医でも  
小技は苦手!?

——ゴルフ歴は30年ほどで、ベストスコアが「75」とお聞きしました。  
須磨 ええ。でも仕事が仕事なので、練習する時間がないのと、緊急手術が入ってラウンドがキャンセルになったりするから、なかなか上手くならなかつたですね。ベストスコアは40代の時に出したものでね、50代が80台で、60代が90台とだんだん下がってきて、今は90台で回ればよし、という感じ  
です。

——他にスポーツ経験は？

須磨 学生時代はスキーマのアルペン競技、あとはバスケットボール。



割と運動はしたほうです。

——比べてゴルフはどうでしたか。  
須磨 どうして止まっている球を上手く打てないんだろうと思いましたが、それは今でも思っています。何でかなあ、ゴルフって一回出来たことの再現性が低いというか、出来なくなるでしょう。僕はスキーのインストラクターをやっていたのですが、ボーゲンしか出来なかった人がターンが出来るようになり、一度身に付くと期間が空いてもボーゲンに戻るということはないんです。でもゴルフは、ある時すごく良い球が打てたのに、それが繰り返せない。

——自転車とは違いますね。

須磨 他のスポーツって、ポジティ

第6回 Traveler Interview  
ゴルフと旅と人生と

「もっと速く」「もっと強く」でしょ。でもゴルフって「もっとゆっくり」「もっとゆったり」というネガティブパワーコントロールが必要だと思っただけです。そんなことは、今まで経験がないから、どうしても思い切り叩きにいってしまっただけで、そうするとだんだんと体のバランスもリズムも狂ってきて地獄に落ちる。わかっているのに、それを繰り返してしまっただけから、ゴルフはつくづく変なスポーツだな、と思いますね。

——心臓外科医の中でも最高の手技と最強のメンタルをお持ちなので、小技は得意なのでは？

須磨 みんな、そう言います。だから、一緒にラウンドした時に僕に勝とうと思ったら、微妙なパットを打つ前に、「そりゃあ心臓外科医だもん、外すわけないよな」と一言囁けばいいと言っただけです。それを聞くと、僕は外しちゃいますから(笑)。

### ゴルフは自分を映す鏡 気持ちが悪くスコアに表れる

——それも不思議なことですよ。須磨 僕はすべての人間にとって「この世で一番の謎」は「自分」だと思っただけです。そもそも人間は、自分自身を上手くコントロール



ドバイの「エミレーツ・ゴルフクラブ」のショップで一目惚れして購入したラクダのヘッドカバー(写真右)。2017年に代官山にクリニックを開業。ベストドクターにも選出された(写真左)。

できないわけです。ましてや集中力をコントロールすることなんてできない。だって過度に集中しすぎると人間は疲れてしまうから、パフォーマンスは下がるわけですよ。だから、リラクセスと集中のコンピネーションがピタッとハマった時が、一番良い状態なわけで、手術の際はまさにそういう状態になります。

——手術中は集中力を上手くコントロールできるわけですね。須磨 僕は心臓外科医として、生涯で5000人の手術をしようと思っただけで、5000までは数えました。実際はそれ以上の手術を

やりましたけど。だから一人4時間としたら2万時間以上やってきたわけで、そこまでやれば集中力をコントロールできるようになります。でもゴルフは2万時間どころか、本当に少ない時間しか球を打っていないので、習熟が全然足りないんですよ。

——その辺りに、ゴルフ上達の真髓がありそうですね。

須磨 ゴルフは「自分を映す鏡」だと思っただけです。最近でも飛距離は出るのにスコアに繋がらないのは、どこかで手を抜いているか、習熟が足りないわけで。年々ゴルフに対する真剣さみたいなのも足りなくなっている表れかもしれないですね。

——ところで、7年前に先生のクラブセッティングを紹介している記事を見たのですが、いろいろなメーカーのクラブが入っているものすごいこだわりを感じたのですが。

須磨 あの頃は、「この番手はこのメーカー」というくらい入れ込んでいましたね。今は、ヤマハの「リミックス」で揃えていますけど。

——やはり、手術の道具と一緒に、本当に手に馴染むものへのこだわりみたいなものがあるわけですか。須磨 例えば、ホールインワンした時の7番アイアンとか、250

ヤード飛ばしたドライバーとか、そういった成功体験をした時の感触が、後々も握った時に蘇ってくるクラブを残しておきたいと思うわけです。そういうクラブを一本ずつ入れておいたら番手ごとにバラバラになっちゃったというわけで。

——その辺の独特の感受性みたいなものは、やはり「神の手」の持ち主という感じがしますね。

須磨 いやいや、イイ顔のクラブなんていつでもわからないからね。——ところで、すごくスマートな体型ですが、スタイルを維持のために何かされているのですか。

須磨 55歳くらいから週に2回はジムに行っただけでトレーニングをしています。50歳半ば過ぎたら、確実に体は衰えていきます。特に太ももとお尻の太い筋肉が落ちると、姿勢が悪くなるから躓きやすくなる。転んで何か月間も寝たきりになり、そういう連鎖によって老化が進んでいくわけです。やっぱり下半身の筋力の強化は大切ですね。

### 思い出の地はアリゾナと 砂漠の中の緑が美しいドバイ

——これまで海外は。

須磨 40か国くらい行きました。——お仕事ですか。

須磨 ほとんど仕事ですね。僕が36歳の時に胃の血管を使った新し



須磨久善  
Hisayoshi Suna

○すま・ひさよし  
心臓外科医。須磨スクエアクリニック院長。1950年、兵庫県生まれ。世界初の胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス手術や日本初のバチスタ手術を成功させるなど、これまで心臓手術症例を5000以上経験し、「神の手を持つ男」と世界から賞賛される。2010年に日本心臓病学会栄誉賞受賞。ゴルフ歴30年以上、程ヶ谷カントリー倶楽部のメンバー。

い心臓のバイパス手術法を拓いて、その後に関開手術を見た海外の医師から「自分の国に来て手術をしてくれないか」と言われ招聘されたり、国際学会などでもいろいろな国へ行きました。

——特に思い入れの強い国は？

須磨 手術をしに、まだ平和だった頃のシリアやアルメニアという国にも行き、悲劇的な出来事も目の当たりにしました。ただ、一番印象に残っているのは、イタリアですね。1994年から2年間、ローマカトリック大学の客員教授として招聘されてローマに住みましたから。

——イタリアでゴルフはされましたか。

須磨 残念ながら、一度もやって

ないんです。イタリア人にとって丸いボールは「蹴るもの」なんですよ。ね。ゴルフでの思い出の地は、アメリカのフェニックス(アリゾナ州)です。学会で行った時に雰囲気が入って、後に家を買ってしまっただけ。当時は、日本を外車1台購入するくらいのお金で家を買ったのでね。ゴルフ場は日本と違って、フェアウェイ以外のラフは砂と岩。樹木じゃなくサボテンが生えているのですが、ボールが当たったところに穴が開いていて、ちょっとかわいそうだったなあ。

——他に印象に残っている海外のコースはありますか。

須磨 ドバイの「エミレーツ・ゴルフ

クラブ」は、乾燥した砂漠地帯に突如として美しい緑の芝生が現れる、あの景観はかなり印象的でしたね。それから、5年ほど前から毎年2月に仲間とオーストラリアのゴールドコーストに行つて、ゴルフをしています。気候も良いし、食事も美味しい。オージービールとか、マッドクラブ、それに冷えた白ワインなんか最高ですよ。

——どんなコースが好きですか。

須磨 ゴールドコーストでは、ジャック・ニクラスが設計した「レイクランド・ゴルフクラブ」でプレーしますが、彼の設計思想は好きですね。基本的にティーイングエリアからグリーンが見えて、ゴルフアーがこのホールをどうやっ

て攻めようかというイメージを立てやすい。

——「フェア」が根底にあるのですね。須磨 そうです。ただ、ニクラスのコースは池が巧みに配されていますが、僕は池は苦手なんです。よく「神の手」などと言われますけど、池を前にすると「神頼みの手」になります(笑)。

——最後に、医師として何かゴルフアーにアドバイスをお願いし

ます。須磨 先ほども少し言いましたが、ゴルフをするしないに関わらず、50歳を過ぎたら筋トレをお勧めします。正しいトレーニングとタンパク質を摂ることでいくつになっても筋肉量は増えます。それから、一度は心臓ドックなどの検査を受けることもお勧めします。

真冬の寒い中でゴルフをされる方も多いかと思いますが、厳冬期のプレーは注意した方がいいですね。寒さを感じると体温の発散を防ごうとして血管は収縮し、血圧が上昇しますから。プロゴルフアーでも、この時期は暖かい場所ですプレーしますよね。プロがしないことを我々アマチュアはしないほうがいい。なるべく暖かいところでゴルフした方が体にもいいし、何より気持ち良くプレーできると思